

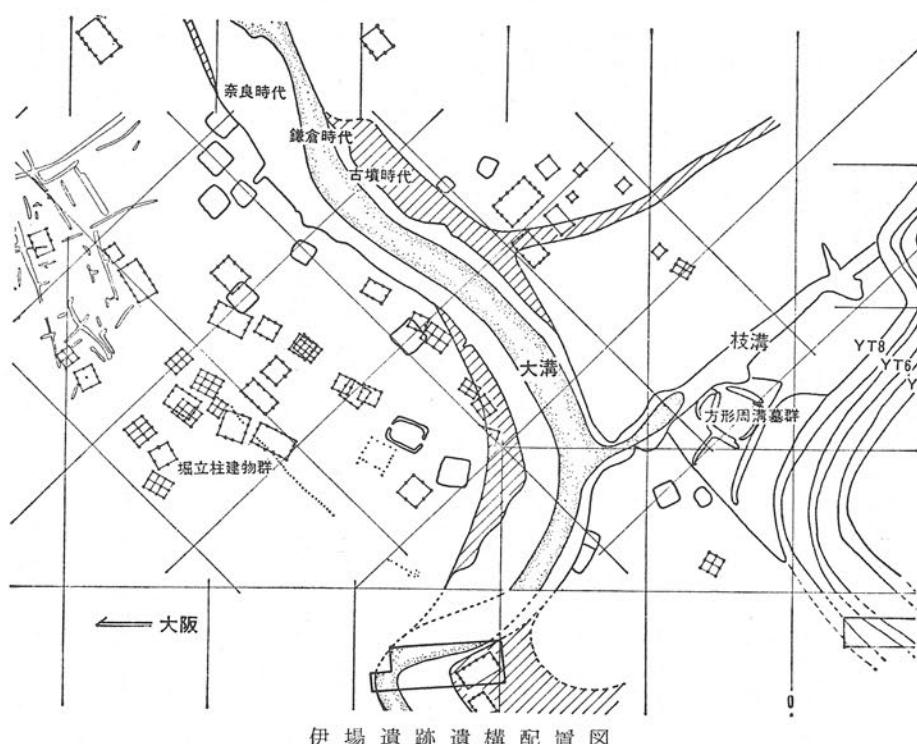
静岡・伊場遺跡

- 1 所在地 静岡県浜松市東伊場、浜名郡可美村東若林
- 2 調査期間 一九七七年(昭52)七月~七八年
- 3 発掘機関 浜松市教育委員会
- 4 発掘担当者 斎藤忠・向坂鋼二他
- 5 遺跡の種類 官衙・集落跡
- 6 遺跡の時代 弥生~歴史時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

伊場遺跡は、静岡県浜松市東伊場から、同浜名郡可美村東若林にまたがる、弥生時代後期の三条の環濠を備えた集落跡(東部地区)と、大溝^{おおくみぞ}と仮称した河川の流域に営まれた律令時代の掘立柱建物群(西部地区)とからなる。およそ五万平方メートルの規模を有する複合遺跡である。

昭和二四年に地元の中学生によって発見され、同年に国学院大学考古学研究室(代表樋口清之教授)による発掘調査を経て、昭和二九年に静岡県により史跡に指定されている。

昭和四三年頃より、東海道線高架化事業に伴い、遺跡が関連用地に含まれたことから、その取扱いが取沙汰されるようになつた。そこで浜松市教育委員会では、昭和四三年より昭和四九年までに当該地域内の発掘調査を、東京国立文化財研究所・奈良国立文化財研究



伊場遺跡遺構配置図

9 関係文献

これらの木簡のほかに、□駅長・郡鑑取・駅長
壱・栗原駅長などと記された墨書土器が検出され
ていることなどから、伊場遺跡の性格付がある程
度なされるものと思われる。

浜松市教育委員会『伊場遺跡第9次発掘調査
略報』
浜松市教育委員会『国鉄東海道線線路敷内埋
蔵文化財発掘調査報告書』
一九七七年
（川江秀孝）